



子ども達を笑顔にするもの

エプロン通信員 備瀬 真理

春。新しい旅立ちと出会いの春。我が家の子供達もそれぞれ進級・進学をし、新たな一面を見るようで非常におもしろい。と同時に子供達の安心・安全の為にどれ位の人たちの想いがあるのか感じることができ、非常に頼もしい。そこで今回は「故郷」をテーマに親である私ができることを書くと思う。

ずいぶん前の話、ムーチーの日（旧暦の12月8日）に「公民館でムーチー作りをします。」と放送が流れた。「行こう！行こう！」と親子でハシャイていると、次男がいつの間にか消え、戻ってきたその手には途中でちぎれたムーチーの葉。「分かる？におつてみイ。これがムーチーの葉っぱだよ。」と自慢げに言った。毎年、義姉にムーチーを頂いている私は葉っぱを見たことはあるが採ったことはない。どうして途中でちぎれていたのか分かったのは、後日、月桃の葉はハサミで切らないといけない程、くきが丈夫で固いと自ら知った時だった。次男はムーチー作りができる喜びを力いっぱい私に向けてきたのだった。公民館では三角巾とエプロンをした先輩方が沢山いて、とてつもなく大きな鍋

に水を張り、ムーチーを蒸す準備をしていた。好奇心から素朴な疑問を投げ掛けた。相当な量の葉は一枚一枚丁寧に採られ、洗われ、湯通しされる。湯通しすることで柔らかくなり、ムーチーを包み易くすることのこと。畳間で子供達の手の大きさもそれぞれに楕円形に丸められ、葉に包まれ、二十分位蒸されたムーチーは新聞紙の上に次々と並べられた。温かさにおいが心地良かった。出来たてのムーチーを頬張りながら由来を聞いた。伝統行事にはそれぞれ由来と意味があり、それを受け継ぎ、次世代につなげる為にも親である私は子供の故郷づくりのお手伝い役になろうと思った。

社会福祉協議会主催のグランドゴルフが変更して催されたムーチー作りだったが毎年何世代もが集える日になって欲しいと願うと共に来年の為に月桃の葉も四季を通じて又、増えていつてほしいと思った。



茶

ぐわーゆんだく

73



合併！？宜野湾市から〇〇市？

今から38年前の1972（昭和47）年5月15日、沖縄県は日本に復帰しました。「アメリカ世」から「大和世」への世替りです。復帰に際し、沖縄は激動の時期を迎えたのですが、ほぼ時を同じくして、ここ宜野湾市でも大きな変化が起ころうとしていました。それは、市町村合併です。

宜野湾市は、北中城・中城両村との合併を検討していましたが、ほとんど進んでいませんでした。しかし復帰も近づいた69（昭和44）年「三市村合併促進協議会事務局」が設置されるなど、急速に話が具体化していきます。その理由は復帰前後での、合併に対する財政補助の差でした。復帰前に合併を行えば大きな補助が受けられるのに対し、復帰後ではほぼなくなるとされたため、復帰前の合併を急いだのです。71（昭和46）年7月の市報には「（71年）11月1日に新しい市が誕生するのはほぼ間違いない」と具体的な日付まで書かれています。

しかしご承知の通り、現在でもこの3市村は別々のままです。合



▲3市村合併の懇談会。
手前中央が当時の島袋市長。
1969（昭和44）年

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会 文化課 ☎893-4430